



横浜トリエンナーレ
YOKOHAMA TRIENNALE

横浜トリエンナーレ2011

開催概要

2011年1月4日現在

お問合せ先：横浜トリエンナーレ組織委員会事務局

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい3-4-1 横浜美術館内

TEL 045-663-7232 FAX 045-681-7606

プレスに関するお問い合わせ先 | press@yokohamatriennale.jp

その他に関するお問い合わせ先 | info@yokohamatriennale.jp

横浜トリエンナーレ2011に向けて

現代美術の国際展は1895年に始まったイタリアのヴェネチア・ビエンナーレを筆頭に、欧米各地で開催され、美術の振興に貢献する大きなフェスティバルとして耳目を集めてきました。1990年代以降、日本でも福岡市、越後妻有地域、横浜市、愛知県をはじめ、光州（韓国）、釜山（韓国）、台北（台湾）、上海（中国）、広州（中国）、シンガポール、シャルジャ（アラブ首長国連邦）など、欧米以外の都市・地域でも2年ごと、3年ごとの国際展が、数多く開催されるようになりました。

美術振興や文化交流の促進を目指す国際展が、これほど多くの都市で開催・継続されるようになった背景には、近年の経済構造の変化があります。物の所有を進める製造中心の経済から知的財産や創造性を重視する経済への移行は、私たちの生活の質や考え方の転換も促すようになりました。またグローバル化による世界の均質化に対して、文化の固有性や価値の多様性を重視する視点も強化され、アートの力が私たちの生活の質向上や都市の再生に不可欠であるという考え方も浸透してきました。

戦後、目覚ましい経済成長を達成してきた日本では、現在GDP世界2位とはいえ、年間の自殺者が3万人以上を数え、いじめや孤立死が常に報じられるなど、社会のひずみが一気に噴き出しています。私たちが生きている現代＝同時代のアートは、数値化や効率的な価値観とは対極にあり、アートのもつ多様性や柔軟性は、21世紀という複雑な時代の生き方や世界を知る上で、示唆に富んだ視点を与えてくれる不可欠なものといえるでしょう。

横浜トリエンナーレは、本格的な現代美術の国際展として2001年に始まり、国内外より注目を集めてきました。第4回目となる横浜トリエンナーレ2011は、10年目という節目を迎えるとともに、運営の軸が横浜に移り、横浜美術館が主会場としてハード・ソフトの両面にも深くかかわることになりました。運営基盤の変化に伴い、今後は横浜美術館を中核に、美術振興を目指す祝祭的国際展として、継続可能な体制を築くことが求められています。

2011年8月6日から始まる横浜トリエンナーレ2011は、主会場での国際展、充実したアート体験をうながす教育普及プログラム、地域で活動する文化関係機関との連携型プログラムで構成されます。国際展は、三木あき子氏をアーティスティック・ディレクターに迎え、内外で活躍する現代美術家の作品をはじめ、横浜美術館の所蔵品など、「世界はどこまで知ることが出来るか」というコンセプトのもとに展示します。そして同時に、横浜トリエンナーレの「みる」「そだてる」「つなげる」という理念にもとづき、地域のNPO、教育機関や海外のパートナーとの協働も強化する予定です。

横浜トリエンナーレは、アジアをはじめとする国際的なネットワークを図りながら、創造都市横浜にふさわしい日本を代表する都市型国際展として、新たな一歩を踏み出します。

横浜トリエンナーレ2011
総合ディレクター
逢坂恵理子



横浜トリエンナーレ
YOKOHAMA TRIENNALE

横浜トリエンナーレ2011 開催概要

名称 | 横浜トリエンナーレ2011 (よこはまとりえんなーれにせんじゅういち)

会期 | 2011年8月6日(土)～11月6日(日) ※会期中の休館日は、決定し次第お知らせします。

会場 | 横浜美術館、日本郵船海岸通倉庫 (BankART Studio NYK)、その他周辺地域

主催 | 横浜市、NHK、朝日新聞社、横浜トリエンナーレ組織委員会

共催 | 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団

総合ディレクター | 逢坂恵理子 (横浜美術館館長)

アーティストック・ディレクター | 三木あき子

横浜トリエンナーレ組織委員会事務局

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい3-4-1 横浜美術館内

TEL 045-663-7232

FAX 045-681-7606

E-MAIL info@yokohamatriennale.jp

ホームページ www.yokohamatriennale.jp



横浜トリエンナーレを支える3つの柱

みる

見る、感じる、知る、探検するなど、知と感覚に訴えます。

そだてる

未来を担うこどもや将来を嘱望される若手の人材、
パートナーとしての市民などとかかわり、ともに成長します。

つなげる

歴史と現在、グローバルとローカル、異分野との交流、
地域の文化芸術拠点・教育機関との連携、市民との協働、
官民連携など多様なチャンネルを通して人と情報の交差と交流を促します。

横浜トリエンナーレ2011 プログラム構成

国際展

アーティストック・ディレクター三木あき子氏による「世界をどこまで知ることが出来るか」というコンセプトをもとに世界や日常の不思議、魔法のような力、さらには超自然現象や神話等に言及した作品に注目し、内外の作家約50名の作品を横浜美術館と日本郵船海岸通倉庫（BankART Studio NYK）を主会場に展示する予定です。

教育普及プログラム

学校の受け入れはもとより、こどもが自ら作品を解説するキッズ・キュレーター・プログラムなどを実施し、作品とかかわることにより、個人の成長につながるようなプログラムを企画していきます。また、市民サポーターや事務局スタッフなど、展覧会を支える人たちの育成にも取り組みます。そして、2014年、さらにはその先までトリエンナーレがつながるように人と関わっていきます。

連携型プログラム

横浜トリエンナーレの主会場が位置する地域に拠点を置く特定非営利法人、教育機関、民間団体等、文化芸術関係組織との連携をはじめ、街に広がる地域資源を活用し、横浜トリエンナーレをきっかけに横浜の魅力を再発見していきます。また、羽田空港の新国際旅客ターミナルの開港に伴い、海外との交流にも一層力を入れ、海外の文化芸術機関との交流に積極的に関わっていきます。



横浜トリエンナーレ2011 国際展

アーティストック・ディレクター・ステートメント:

世界をどこまで知ることが出来るか*

21世紀初頭の現在、科学技術は高度に発達し、インターネット等のメディアによって世界は隅々まで明らかにされたかに思えます。しかし、我々の身の回りには、まだまだ科学や理性では説明できない世界の不思議が多く存在しています。

今回の「横浜トリエンナーレ2011」は、「われわれは、世界をどこまで知ることが出来るのか」という問いのもと、世界や日常の不思議、魔法のような力、さらには超自然現象や神話、伝説、アニミズム等に言及した作品に注目したいと思います。

この方向性は、決して科学の限界を問うものでも、また神秘主義を讃えたり、単にアートの娯楽性のみを追求するものでもありません。それよりも、こうした科学では解き明かせない領域に改めて眼を向けることで、これまで周辺と捉えられていた、あるいは忘れ去られていた価値観や、人と自然の関係について考えるとともに、より柔軟で開かれた世界との関わり方や、物事・歴史の異なる見方を示唆しようとするものです。

なお、まだ準備の初期段階のため、タイトルを含め具体的な企画内容については、今後の発表となりますが、この第4回トリエンナーレより、横浜美術館をメイン会場として新たな第一歩を踏み出すことになったことを受けて、本展では必ずしも国内外の現代アーティストの新作ばかりに拘るのではなく、美術館だからこそ可能な古今東西の歴史的作品や横浜美術館の所蔵品も一部展示の中に含みたいと考えます。さらには、フォークロア等通常の美術の枠には入りにくい作品も含み、時代、文化背景の異なる作品が対峙、対話することで新たな解釈が生まれ、分類やカテゴリーにとられない自由な鑑賞の旅を創出します。また、展示作品には、宝探しのような楽しさに満ちた作品や、奇想天外でユーモアに富んだ作品も含まれ、子供のような純粋な好奇心、そして感動や驚きを喚起します。

このように、知らない世界の探求、新しい知識の航海への船出ともいえるような本展が、停滞感が強く先行きの見えない現代に対してなんらかのメッセージを持ち、また世界中で国際展が氾濫し、その存在の明確化が求められるなか、世界に初めて開かれた港である横浜に適した国際展のかたち、そのアイデンティティーの模索に繋がれば幸いです。

横浜トリエンナーレ2011
アーティストック・ディレクター
三木あき子

*タイトル、作家については後日発表予定



横浜トリエンナーレ
YOKOHAMA TRIENNALE

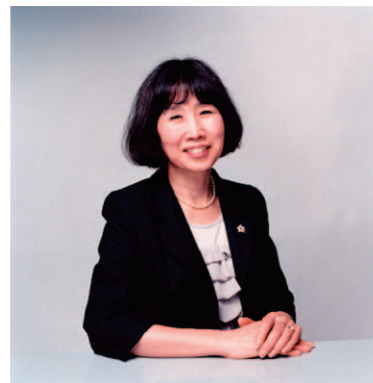
横浜トリエンナーレ2011 ディレクター

総合ディレクター

逢坂恵理子(横浜美術館館長)

学習院大学文学部哲学科卒業、芸術学専攻。国際交流基金、ICA名古屋で、数多くの現代美術国際展にかかわり、水戸芸術館現代美術センター(1994-2006年、1994年より主任学芸員、1997年より同センター芸術監督)、森美術館アーティストティック・ディレクター(2007-2009年)を経て、2009年4月より現職。

主な企画展に、「クリスチャン・ボルタンスキー展」(1990年ICA名古屋)、「今日の作家展—視えない現実」(1993年横浜市民ギャラリー)、「アンディー・ゴールズワージー：ふたつの秋」展(1993-94年栃木県美術館/世田谷美術館)、「アネット・メサジェ：聖と俗の使者」(2008年森美術館)等がある。水戸芸術館では「ジェームズ・タレル—未知の光へ」(1995年)、「イリヤ・カバコフ：シャルル・ローゼンタールの人生と創造」(1999年)、「宇宙の旅」(2001年)、「カフェ・イン・水戸」(2002年、2004年)、「クロード・レヴェック」(2002年)、「Living Together is Easy」(2005年メルボルン・ヴィクトリア州立美術館巡回)、「人間の未来—ヘーダークサイドからの逃走」(2006年)等企画多数。第3回アジア・パシフィック・トリエンナーレ(1999年)日本部門コ・キュレーター、第49回ヴェネチア・ビエンナーレ日本館コミッショナー(2001年)として国際展にも関わる。著書に『12人の挑戦—大観から日比野まで』(2002年茨城新聞社刊)、『アネット・メサジェ：聖と俗の使者たち』(2008年淡交社刊)等がある。



撮影：鈴木理策

アーティストティック・ディレクター

三木あき子

米国ワシントン大学美術史科卒業、パリ第四ソルボンヌ大学美術史科修士課程終了。インディペンデント・キュレーター、電通アートプロジェクト共同ディレクター等を経て2000年よりパレ・ド・トーキョー チーフ・キュレーター。

主な企画展に、「第46回ヴェネチア・ビエンナーレ：トランスカルチャー展」(1995年ヴェニス他巡回)、「不易流行：中国現代美術と身の周りの眼差し」展(1997年東京他巡回)、「台北ビエンナーレ：欲望場域」展(1998年台北市立美術館)、「SPIRAL TV」展(1999年スパイラル)、「Twilight Sleep：日本のビデオアート」展(2000年ローマ日本文化会館)、「荒木経惟：Self, Life, Death」展(2005-6年ロンドン、パーピカンアーツセンター、ベルギー国立写真美術館、ストックホルムカルチュラルフゼット巡回)、「Programme Tropico-Vegetal」展(2006年パレ・ド・トーキョー)、「チャロー！インド：インド美術の新時代」展(2008-09年森美術館、ソウル国立現代美術館、ウイーンエスル美術館巡回)、「直島：アートと建築のアーキペラゴ」展(2009年パレ・ド・トーキョー)等がある。(共同企画も含む)アジア・パシフィック・トリエンナーレ、リヨン・ビエンナーレ等の国際展での経験も多数。また、シャルジャ・ビエンナーレ等の図録や、国内外の美術誌への執筆、『Nobuyoshi Araki：Self, Life, Death』(Phaidon Press)等共著も多い。



横浜トリエンナーレ2011 会場

1. 横浜美術館

横浜美術館は、1989年3月に、横浜博覧会の施設として開設し、同年11月3日に開館。19世紀後半以降の美術作品を中心に、ダリ、マグリット、ミロ、ピカソ、セザンヌ等の作家の作品、幕末・明治以来の横浜にゆかりの深い作家の作品等幅広く収集。写真伝来の地のひとつである横浜にある美術館として、写真コレクションも充実。建物は延床面積26,829m²、丹下健三都市建設設計事務所の設計。横浜トリエンナーレ2011では企画展、コレクション展展示室のほかグランド・ギャラリーなど、館内全域を展示会場として展開予定。



撮影：笠木靖之

■交通案内

電車 | みなとみらい線（東急東横線直通）をご利用の場合：みなとみらい駅下車、「美術館口（3番出口）」（横浜駅寄り改札口）を出て徒歩3分。JR線、横浜市営地下鉄線をご利用の場合：桜木町駅下車、【動く歩道】を利用、徒歩10分。

バス | 桜木町駅から、市営バス156・292系統で「横浜美術館」下車。

車 | 桜木町駅前から日本丸方面へ入る。または桜木町駅前から紅葉坂交差点を右折してMM21地区へ入り、美術館へ。

横浜駅からは高島町MM21地区入口を通過して美術館へ。いずれも3~5分（首都高「みなとみらいランプ」も利用できます）。

2. 日本郵船海岸通倉庫(BankART Studio NYK)

馬車道駅から徒歩4分の日本郵船海岸通倉庫は、1952年に物流倉庫としてスタートし、日本郵船歴史資料館を経て、2005年より、NPO法人BankART1929の運営するBankART Studio NYKとして、展覧会・パフォーマンスイベント・カフェ・ショップ・スタジオ・スクール等の会場として活用。2008年に設計事務所「みかんぐみ」による本格的改修設計を経て現在に至る。横浜トリエンナーレ2011では3階建鉄筋コンクリート造の建物の1階の一部と2~3階の延床面積約2,500m²を利用予定。



■交通案内

電車 | みなとみらい線「馬車道駅」（6番出口）徒歩4分

3. その他周辺地域

メイン会場の周辺での展開も予定しております。決定次第お知らせいたします。



横浜トリエンナーレ
YOKOHAMA TRIENNALE

横浜トリエンナーレ 開催実績

| 開催年 | 2001 | 2005 | 2008 |
|------------|---|------------------------|---|
| 会期 | 9月2日～11月11日 (71日間) *休館日4日含む | 9月28日～12月18日 (82日間) | 9月13日～11月30日 (79日間) |
| 主会場 | [2会場] パシフィコ横浜展示ホール 赤レンガ倉庫1号館 | [1会場] 山下ふ頭3号・4号上屋 | [7会場] 新港ピア 日本郵船海岸通倉庫 (BankART Studio NYK) 赤レンガ倉庫1号館 三溪園 ほか |
| テーマ | メガ・ウェイブ —新たな総合に向けて | アートサーカス [日常からの跳躍] | TIME CREVASSE タイムクレヴァス |
| ディレクター | アーティスティック・ ディレクター： 河本信治 建畠 哲 中村信夫 南條史生 | 総合ディレクター： 川俣 正 | 総合ディレクター： 水沢 勉 |
| キュレーター | — | 天野太郎 芹沢高志 山野真悟 | ダニエル・バーンバウム フー・ファン 三宅暁子 ハンス・ウルリッヒ・ オブリスト ベアトリクス・ルフ |
| 参加作家数 | 109作家 | 86作家 | 72作家 |
| 総事業費 | 約7億円 | 約9億円 | 約9億円 |
| 総入場者数 | 35万人 | 19万人 | 55万人 |
| 有料会場入場者数 | 約15万人* | 約12万人 | 約30万人* |
| チケット販売枚数 | 約17万枚 | 約12万枚 | 約9万枚 |
| ボランティア登録者数 | 719人 | 1,222人 | 1,510人 |

* 第1回、第3回については、有料会場の延べ入場者数

